

| | |
|-----|--------------------|
| 事業名 | 県が設置する審議会等への女性登用促進 |
| 担当課 | 男女共同参画課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|--------------------|---------|---|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 1 |
| 当初予算額(千円) | 0 | | | 決算額(千円) | 0 | | |
| 事業の概要・目的 | 政策決定過程において男女が共同して参画する機会が確保されていることは、男女共同参画社会の基盤を成すものであることを踏まえ、本県における審議会等女性登用率の目標40%の達成に向けて、委員選任の事前協議手続を周知徹底する等により庁内の取組を促進する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 県の審議会等における女性委員割合 | | | | | | |
| 目標 | 40% | 実績 | 29.1% (H28.4.1) | | | | |

2 事業の実施結果

審議会等の委員改選時に事前協議(46件)を実施するとともに、女性人材リストの提供や関係団体における女性人材の発掘を促すこと等により、女性登用率の向上に努めた。
また、県のHPにおいて個々の審議会における女性委員の登用状況や、登用率の低い審議会について登用率が低い理由等を掲載することで、各審議会ごとの女性登用率向上に向けての取組を促した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|----|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞
審議会における女性登用率は前年度よりは向上したもののまだ低い状況が継続しているため、目標の達成に向け、個々の審議会の状況を踏まえつつも更に女性委員の登用を進めていく必要がある。

| | |
|-----|--------------|
| 事業名 | 県の女性人材リストの充実 |
| 担当課 | 男女共同参画課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------|------|---------|-------|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 2 |
| 当初予算額(千円) | 2,267 | | | 決算額(千円) | 2,384 | | |
| 事業の概要・目的 | 県の審議会等委員への女性登用指標を達成するうえで、必要な事項を定め、もって政策・方針決定過程への女性の参画の促進を図る。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 千葉県女性人材リスト掲載者数 | | | | | | |
| 目標 | 600名 | 実績 | 357名 | | | | |

2 事業の実施結果

県内外の各分野で活躍している女性人材情報を収集した女性人材リストの充実を図り、県及び市町村における審議会等委員の女性登用促進や男女共同参画施策を推進した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
|----------------------------|--|------|----|
| | | | |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

平成26年度以降の新規登録者以外の全掲載者にデータ確認を依頼し、データの更新を図った。

<課題・今後改善すべき点>

特に、女性人材が少ない分野である土木、建設、防災分野等の人材情報を充実させることが必要である。

| | |
|-----|--------------|
| 事業名 | 女性職員の役付登用の促進 |
| 担当課 | 総務課、関係各課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------|-------|---------|---|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 3 |
| 当初予算額(千円) | 0 | | | 決算額(千円) | 0 | | |
| 事業の概要・目的 | 県行政の政策・方針決定過程へ多様な視点の導入や新たな発想の取入れ等の観点から、女性職員の役付職員への登用を促進する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 県職場の役付職員に占める女性の割合 (知事部局 係長・主査級以上) | | | | | | |
| 目標 | — | 実績 | 26.2% | | | | |

2 事業の実施結果

平成28年4月の定期人事異動において、県職場の役付職員（係長・主査級以上）に占める女性の割合は26.2%となった（前年度比+0.6ポイント）。
また、女性幹部職員の職域拡大を進め、組織の中核となるポストにも積極的に登用した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|----------------------------------|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの） | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | 役付職員については、適材適所を基本に男女の区別なく登用している。 |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

これまでと同様に、女性職員について、幅広い職域において多様な職務経験を積むことによる能力開発や、研修を通じた養成を行い、積極的な登用を図っている。

<課題・今後改善すべき点>

引き続き、職員意向調査等により、職員の個人的な事情を把握したうえで、任用や人事配置を図り、女性職員がやりがいを持って働くことのできる職場環境づくりを推進する。

| | |
|-----|---------------|
| 事業名 | 女性教職員の役付登用の促進 |
| 担当課 | (教)教職員課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|---|---------|---|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 3 |
| 当初予算額(千円) | 0 | | | 決算額(千円) | 0 | | |
| 事業の概要・目的 | 県の施策を積極的に展開するため、職員の意欲能力等を十分考慮し、適材適所を基本に、男女の区別なく登用を図る。 また、研修による意識改革や人材開発に努めるとともに、積極的に女性を登用していく。 管理職候補となる主任層への女性職員の積極的な登用について校長会等を通じて伝えていく。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | — | | | | | | |
| 目標 | — | 実績 | — | | | | |

2 事業の実施結果

校長・副校長・教頭の女性登用数は、平成25年度361名、平成26年度377名、平成27年度382名と毎年増加してきている。平成27年度の割合は13.3%で前年比0.2ポイント増となったが、全国平均15.7%とは依然2.4ポイントの差がある状況である。

H27年度末に主幹教諭として配置された女性職員は45名で、前年度より12名の増加となっている。今後の学校運営への関わりに大きな期待が寄せられる。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|----|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<課題・今後改善すべき点>

人事異動方針に明記している積極的な女性職員の管理職への登用を周知していくとともに、管理職希望を拡大するため、管理職への登用につながるミドルリーダーとして、主幹教諭を含めた主任層への女性の登用を推進し、積極的に校務運営に携わってもらうことで、管理職登用増加につながる取組を更に進めていく。

| | |
|-----|--------------------------|
| 事業名 | 男女共同参画に積極的に取り組んでいる事業所の表彰 |
| 担当課 | 男女共同参画課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|---|---------|----|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 30 | | | 決算額(千円) | 38 | | |
| 事業の概要・目的 | 仕事と家庭の両立支援や女性の登用・職域拡大等に積極的に取り組んでいる県内の事業所を公募により募集し、表彰を行う。 また、受賞事業所については千葉県男女共同参画推進連携会議において取組の発表等を行い、県のホームページに掲載するなど広く周知を図る。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | — | | | | | | |
| 目標 | — | 実績 | — | | | | |

2 事業の実施結果

6月から8月まで募集を行い、4つの事業所から応募を得た。外部委員を含む選考委員による選考会を経て、3事業所を奨励賞として表彰した。
千葉県男女共同参画推進連携会議産業部会において、受賞事業所の取組を発表する予定である。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|----|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | ○ | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | ○ | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>
経済団体、加入団体等へのチラシ配布に加え、団体等に訪問し事業の説明をするなど積極的な周知を図った。

<課題・今後改善すべき点>
本年度は知事賞に値する事業所からの応募が無かったため、今後は、連携会議加入団体等への直接的な働きかけ等を行い、優れた取組をしている事業所の発掘を図る必要がある。

| | |
|-----|----------------------|
| 事業名 | ポジティブ・アクション推進セミナーの開催 |
| 担当課 | 雇用労働課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------|---|---------|--------------------|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 施策コード61・69の予算に含まれる | | | 決算額(千円) | 施策コード61・69の予算に含まれる | | |
| 事業の概要・目的 | 職場における実質的な男女の均等な待遇改善のため、一般県民、企業の人事労務担当者等を対象にセミナーを開催し、啓発に努める。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | - | | | | | | |
| 目標 | - | 実績 | - | | | | |

2 事業の実施結果

ワーク・ライフ・バランスセミナーの一環として県内の主要経済団体等と連携して男女共同参画課との共催で「女性の活躍促進セミナー」を1回開催した。
労働大学講座の1講座として、ワーク・ライフ・バランス講座を実施し、その中で女性の両立支援についても扱った。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|--------------------------------------|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | ○ | 団体・事業者に広報を行った。労働大学講座は1講座のみの受講も可とした。 |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | ○ | 参加者の男女別の集計を行った。 |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | ○ | 専門家、先進事例の講義により、女性の活躍の場の拡大の啓発となった。 |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | ○ | 専門家、先進事例の講義により、ワーク・ライフ・バランス等の啓発となった。 |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | 専門家、先進事例の講義により、男女参画の促進の啓発となった。 |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

参加者の理解をより深めるため、千葉県男女共同参画推進事業所表彰千葉県知事賞受賞企業による女性の活躍を促進する先駆的な取組についての事例発表を導入した。

<課題・今後改善すべき点>

広く一般を対象とすることで、女性活躍の意義を広める効果はあった。今後は、女性の活躍を実践できる立場にある経営者等に参加者を限定することで経営者として問題意識をもってもらうとともに、理解を浸透させ実践につなぐことができる内容を検討する。

| | |
|-----|---------------------|
| 事業名 | 農山漁村女性団体ネットワークの活動支援 |
| 担当課 | 担い手支援課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------|--------------------------|---------|-------|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 3,400 | | | 決算額(千円) | 2,318 | | |
| 事業の概要・目的 | 農業・畜産・林業・水産業の様々な分野の女性団体によるネットワーク組織が、各分野や団体間の相互理解を深め、活動の充実を図るための研修会を開催する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業士等認証数 | | | | | | |
| 目標 | 1,700戸 525経営体 180人 | 実績 | 1,743戸 447経営体 107人 | | | | |

2 事業の実施結果

農山漁村女性団体ネットワークのリーダー会議を3回開催し、会議の活動方針、県との共催による交流会の内容等を協議した。交流会には団体会員のほか、関係機関、農業高校の生徒など245名が参加し、女性の社会参画の立場からみた農林水産施策をテーマとした講演や、活動事例紹介などで会員の意識醸成を図った。また、団体ネットの構成団体代表者の連名で農業委員改選予定のある16市町に、女性農業委員の登用要望書を提出した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|---|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | × | 活動支援は社会参画できる女性の育成を図っているため、対象団体の構成員の女性のみを対象としています。 |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | ○ | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | ○ | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

農山漁村女性団体ネットワークの幹事会であるリーダー会議の中で、ネットワークの具体的な活動内容について検討を行い、連携できる点と各組織ごとに来る活動の役割分担を確認した。研修会は農林水産施策の講演会のほか、評価の高かった会員の交流のための情報交換を継続して行った。

<課題・今後改善すべき点>

研修会はアンケートの結果を反映させて、出来るだけ多くの会員が参加でき、研修の効果が実感できるように開催時期や内容を検討する。女性登用の要望書については農業委員の制度等の変更に対応できるように、現在までの実施結果の確認を行い、より効果の高い推進方法を検討する。

| | |
|-----|--------------------|
| 事業名 | 地域ごとに設置した推進組織の活動支援 |
| 担当課 | 担い手支援課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|--------------------------|---------|-------|------|---|
| 基本目標 | II | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 3,400 | | | 決算額(千円) | 2,318 | | |
| 事業の概要・目的 | 各地域の推進母体である地区推進会議は、県・市町村・関係団体により構成され、各農業事務所が事務局として運営している。 農業事務所は、情報の共有化や意識啓発を図るため、会議やセミナー等を開催する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業者等認証数 | | | | | | |
| 目標 | 1,700戸 525経営体 180人 | 実績 | 1,743戸 447経営体 107人 | | | | |

2 事業の実施結果

| |
|---|
| 県内10農業事務所が運営する地区推進会議で関係機関やいきいきアドバイザー構成員として合計14回開催した。また、各地区で男女共同参画推進セミナーを合計9回開催した。地区推進会議では関係機関等に男女共同参画のための環境整備の必要性の理解の促進を図った。セミナーでは、農業委員や団体役員等、地域で活躍している女性が事例発表や講演を行い、女性農業者と関係機関を中心に延べ234名が参加した。 |
|---|

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|----|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | ○ | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | ○ | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | ○ | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | ○ | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | ○ | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

市町村等の関係機関の担当者が男女共同参画についての実用的な知識・情報を共有できるように各地区で幹事会、地区推進会議を行った。また、各地域での取り組み状況の情報を取りまとめて紹介し、各地域での活動に活用できるよう共有化した。

<課題・今後改善すべき点>

効果的な行事等の開催のために、先進事例等の情報を蓄積しデータベース化を進める。

| | |
|-----|---------------------|
| 事業名 | 農山漁村いきいきアドバイザーの活動支援 |
| 担当課 | 担い手支援課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|---|--------|--------------------------|---------|-------|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 3,400 | | | 決算額(千円) | 2,318 | | |
| 事業の概要・目的 | 平成19年度から認証を開始した「農山漁村いきいきアドバイザー」の活動を推進する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業士等認証数 | | | | | | |
| 目標 | 1,700戸 525経営体 180人 | 実績 | 1,743戸 447経営体 107人 | | | | |

2 事業の実施結果

地区推進会議の構成員として行う、関係機関等との連携活動を支援した。また、各地区で行われた男女共同参画や若手女性の研修会、農業女性の交流に関する行事での講師、事例紹介等の活動の支援を行った。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
|---------------------|--|------|--|
| | | | |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | × | 女性の登用割合が特に低い農業分野において役職登用を推進するため、アドバイザー認定者の92%が女性となっています。 |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | ○ | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | ○ | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | | |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

各地域で男女共同参画推進会議の構成員として位置づけられた結果、関係機関との連携、研修会の講師など積極的にアドバイザーとしての活動が行われた。

<課題・今後改善すべき点>

アドバイザーがより効果的な活動を行うため、他の女性団体等のリーダー、役員候補等との合同の研修会を開催する。

| | |
|-----|----------------------|
| 事業名 | 女性農業委員等の登用促進 |
| 担当課 | 農林水産部 農地・農村振興課/団体指導課 |

1 事業の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--------|--------------------------|---------|---|------|---|
| 基本目標 | Ⅱ | 基本的な課題 | 6 | 施策の方向 | ① | 施策番号 | 4 |
| 当初予算額(千円) | 0 | | | 決算額(千円) | 0 | | |
| 事業の概要・目的 | 農業において、生産者や消費者等の立場のわかる女性の力が期待されているが、政策・方針決定過程への女性の参画は依然として低水準である。農業委員会や農業協同組合における女性委員や女性役員の登用拡大を目指し、関係団体等に女性登用を要請する。 | | | | | | |
| 数値目標など | | | | | | | |
| 指標名等 | 女性農業委員数・農業協同組合の女性役員数 | | | | | | |
| 目標 | 増加を目指します | 実績 | 女性農業委員 64名 農協女性役員 39名 | | | | |

2 事業の実施結果

全市町村長に文書要請を行うとともに、平成28年度に改選時期をむかえ新体制に移行する市町村のうち、8市町に対しては直接要請を行った。県内農業協同組合(20組合)に対して女性農業者の活躍推進・登用促進に向けて文書等で要請を行った。

女性農業委員は目標80名に対し実績64名(80.0%)であり、前年度比11名増加した。農協の女性役員数は目標42名に対し実績39名(92.9%)であり、前年度比で2名増加した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

| ★視点1 企画への参画 | | | |
|---------------------|--|------|---|
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 1 | 事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか | | |
| 2 | 企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか | | |
| 3 | 性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの) | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点2 受益の公平性 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 4 | 女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか | | |
| 5 | 事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか | | |
| 6 | 男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか | | |
| | (任意記載) | | |
| ★視点3 男女共同参画社会形成への貢献 | | | |
| No. | チェック項目 | チェック | 説明 |
| 7 | 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか | ○ | 各首長及び農業協同組合代表理事組合長に女性農業委員及び女性役員登用の要請を行った。 |
| 8 | ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか | | |
| 9 | 事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか | ○ | 女性農業委員及び農協の女性役員が増加した。 |
| | (任意記載) | | |

(2) 改善点等

<改善した点>

女性農業委員の必要性について、各種会議・研修会でその必要性の意識の涵養を図った点。女性役員の登用について文書による要請だけでなく、女性役員未登用の組合については直接要請した点。

<課題・今後改善すべき点>

新制度に移行する改選期に合わせ、市町村長に女性農業委員の登用について、農業会議とも連携して、引き続き要請していく。女性役員未登用の農業協同組合に対して直接要請するとともに、登用済み組合に対しても一層の登用を図るように、関係各課と連携して引き続き要請する。